

田中康夫

今月の憂いコト

東京の川の舟遊びから、伊勢志摩サミット、オバマ大統領の広島訪問、子宮頸がんワクチンまで。

東京・日本橋のたもとから、『舟遊び みつは』の舟に乗り、日本橋川、隅田川、神田川を遊覧した田中・浅田両氏。川の流れにのんびりと揺られ、歴史ある橋をくぐりながら、「ゆく川の流れは絶えずして」のごとく変わりゆく、東京の流れ、日本の流れ、そして世界の流れを論じ合った。

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

浅田彰

憂

憂国呆談

season 2 VOLUME 73

東京は川の街？ 舟遊びから見たもの。

浅田 今日日本橋のたもとから舟に乗り、日本橋川から隅田川をへて神田川へ、そして再び日本橋川に入ってスタート地点へと、川遊びを楽しんだ。川面から再発見する東京の風景はダイナミックで、おもしろかったね。僕なんかは東京の地理を電車や地下鉄にそって把握しちやつてるけど、川から見直すと東京の本来の地勢がわかっていい。江戸時代からの歴史的遺構も残ってるし。

田中 クラシカルな橋がたくさん架かっていて見応えがあったね。『舟遊び みづは』でガイドを務めてくれた『フローティングライフ』の佐藤美穂さんによれば、あのコースに架かる橋の多くは関東大震災の後の復興橋梁で、大正の終わりから昭和の初め頃につくられたものだ。燃えた船が流れてきて橋脚に引っかかり、焦がした跡が残っていたり。

神田川は中央線沿いだから普段から何となく目にした風景だけど、小石川橋の手前を右に折れて日本橋川に入ると、見たこともない風景に出合えて興味深かった。

浅田 関東大震災後の帝都復興計画では橋のデザインにも手を抜かなかったんだね。

田中 神田川沿いの老舗の佃煮屋『小松屋』ではしらす山椒も買った。

浅田 東南アジアの水上市マーケットみたいで、娘さんが奏でる三味線も粋なものだったな。

田中 一時期は隅田川や神田川もヘドローで匂いが凄かったけど、随分と改善どころか、心地良くて驚いたよ。

浅田 舟の動きもスムーズだし、道路みたいなうるさくもない。『ヴェネチアはいちば

ん進んだ街だ、すでに自動車卒業しているから』っていうジョン・ケージのジョークを思い出したよ。外国人旅行者も増えているんだから、東京はもっと水上観光に力を入れればいいのに。東京のみならず大阪も、いや名古屋ですら、見直してみると海に近い水路の街なんだよね。大阪では「水都大阪」ってプロジェクトを立ち上げて水辺の再生を試みてる。

その旗振り役の一人である安藤忠雄は、大阪文化館・天保山（旧・サントリリーミュージアム）でも、阪神・淡路大震災後に建てた兵庫県立美術館でも、水路からのアクセスを想定してるんだよね。兵庫ではまだ実現してないけれど、神戸港の遊覧船の経路をそこまで延ばせばいいのに。他方、内陸の京都でも、疎水をめぐる舟から桜を見る観光コースが人気。マニア向けには、三井寺から山科をへて京都まで、トンネルもくぐりながら疎水をたどるコースもある。

田中 アメリカ・テキサス州のサンアントニオでは、舟に乗って街を散策する観光が人気だ。短いコースなんだけど、客はたくさん来る。太古の昔、水がある場所に人は住み、緑を燃料にした。でも、その水と緑は人々を思索的にする大切な要素で、そこに文化が生まれたんだね。

浅田 それにしても、日本橋川の上の首都高速道路を舟から見上げると、いかに減茶苦茶なものをつくったかがよくわかるね。1964年の東京オリンピックピック開催に合わ



せて、土地収用が簡単な川の上に通すことを思い付き、その後ずっと同じことをやり続けてきたわけだ。高速道路を撤去して川を再生する計画もあるようだけれど。

田中 地下を通せば撤去はできないことはない。前回のオリンピックの前後に、数寄屋橋から何からみんな埋め立てたわけだから。韓国で李明博前・大統領（イ・ミョンバク）がソウル市長時代に清溪高速道路を撤去して清溪川を再生した。そういうのは大事な公共事業なんだよ。

浅田 小泉純一郎元首相の新自由主義政策には問題が多かったけど、彼が李明博を真似て首都高移設による日本橋再生を提言したのは正しいね。

オリンピックをやるなら、代々木地区の大規模開発なんかじゃなく、そういう都市再生こそ進めなきゃ。彼が東日本大震災のあと脱原発を強く主張してるのも、同じ流れだと思う。

そう言えば、東北の被災地を支援する「トモダチ作戦」で放射能による被害を受けたとして東京電力を訴えてる米兵たちの話を聞いて、小泉が涙を流し、支援を約束した、ああいう感覚も安倍晋三首相にはないなあ。もちろん米兵同様に被災地住民のことも考えてほしいけど。

田中 天性の「勘性」を持った小泉が、い意味での先祖返りをしているともいえる。その昔、アフガニスタンへの自衛隊派遣に、宮沢喜一内閣の閣僚として異を唱えた19

93年の頃にね。

サミットも、広島訪問も、 安倍内閣の内政利用？

浅田 G7（主要7か国首脳会議）伊勢志摩サミットが5月に開催されたけど、安倍首相が各国首脳を伊勢神宮の内宮の前で迎えた、あれは大問題でしょう。日本文化に触れてもらうためで、参拝はしてないって言うけど、神宮は文化施設じゃなく宗教施設なんで、政教分離の原則に抵触するって言われても仕方がない。

田中 以前にも述べたけど、国教制度のイギリスと違って、アメリカやフランスはライシテと呼ばれる厳格な政教分離を取っているのだからね。

浅田 海外のメディアはそれを報じてるし、日本でも『ジャパン・タイムズ』なんかは安部を支える日本会議のような神道系右翼の意向に沿うものだって言ってる、ところがマス・メディア一般はまるで腰が引けやってるんだなあ。

田中 G7に提出した資料だって首相秘書官の今井尚哉が書いたわけですよ。英文の資料には「リーマン・ショック」という言葉はないのに和文の資料にはたくさん書いてあるという（苦笑）。

浅田 「リーマン・ショック並みか東日本大震災並みの危機でないかぎり消費税増税は再延期しない」と断言しておきながら、参院選を控えてやっぱり再延期したい、それには「今はリーマン・ショック直前のような危機的状況だ」とサミットでお墨付きを得たい、と。英独をはじめとする各国首脳が呆れたのももちろん、財務省なんかの経済官僚もこのインチキ資料には愕然としたらしい（苦笑）。強いていえば中国のバブ

ル崩壊が懸念されるものの、世界経済がリーマン・ショック直前なんてよく言えたもんだよ。

田中 実は彼の狙いは今回の選挙を衆参ダブル選挙にしないことだったと思うよ。小選挙区制度でダブル選挙を行ったら、衆議院議員は参院選に関わる余裕がない。公明党は増税を認めてでも軽減税率にこたわったけど、ダブル選挙を避けるのは至上命題。こうした中で、参院選後の近い時期に総選挙という情勢をつくって、党内の引き締めを図ったと。その思惑が秋以降も成功するか、未知数だけどね。

浅田 G7閉幕後、バラク・オバマ大統領はその日のうちに米大統領として初めて広島を訪れた。日本政府が強く促したわけじゃない、米政府が政治的決断をして訪れたっていうのに、安倍がちやっかり傍らに立ってたのはどういうこと? 『ニューヨーク・タイムズ』が、オバマの後に安倍が献花に向かうところで両者が前後逆方向を向いてる写真を載せたのは意味深長。オバマの言う広島精神を裏切って安倍が軍事大国化を進めようとしてるってことでしよう。

オバマは思想家・宗教家じゃなく政治家なんだから「核兵器を可能にした科学技術の進歩が道徳的覚醒を必要とする」なんてお説教だけじゃダメで、演説自体はまるで無内容。でも、米大統領が広島に来て犠牲者に献花するだけで歴史の意味はあるか

「謝罪」の言葉があったかなかったかと不毛な二元論で

捉えるメディアにはうんざりだね。(田中)

らね。

田中 17分もの演説は、少なからず自己陶酔的だったとは言える。旧・西ドイツの大統領だったリヒャルト・フォン・ヴァイツェッカーが「過去に目を閉ざす者は、現在に対してもやはり盲目となる」と1985年に連邦議会で演説した「荒れ野の40年」に比べるとね。とは言え、「謝罪」の言葉があったかなかったかと不毛な二元論で捉えるメディアにはうんざりだね。

浅田 そう、慰霊碑に献花するってパフォーマンスが象徴的に示してるわけよ。他方、原爆で米兵捕虜12人が死んだ事実を発掘してきた被爆者の森重昭を招待して、最後にそっと抱きしめるパフォーマンスも見事。むろん、大勢の朝鮮人の犠牲にも触れてたしね。

しかし、安倍はそんなことにはお構いな

田中康夫

たなか・やすお●1956年東京都生まれ。
一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。
長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。最新刊は『33年後のなんとなく、クリスタル』。



く、とにかく伊勢志摩サミットとオバマ大の広島訪問を手土産に参院選を戦えば勝てるだろう、と。外交の内政利用もここに極まりって感じだね。

田中 国内的にも「新しい判断」という珍妙なセリフを登場させたしね。

因果関係はわからないと、認めることから科学は始まる。

田中 僕のところには『H.Q.』という一橋大学の広報誌が年4回送られてくるんだけど、2016年春号にはるか年下の同窓生である中村理子が、村中璃子というペンネームでインタビューに答えていた。「日本の科学的ジャーナリズムにおいては、記者が科学的な立場からの正しい解釈を入れて記事を書く」という作業を怠っていることが多いため、間違った情報や印象が氾濫している状況、

「誰にでもわかる言葉や物語で正しい情報を伝えるとともに、社会学と医学という二つの視点を持つ書き手として、科学の記事を書く人、読む人両方のレベルを底上げしたいという思いもあります」とね。

彼女は一橋大学社会学部と北海道大学医学部を卒業し、世界保健機関(WHO)西太平洋地域事務局の新興・再興感染症チームを経て医療ジャーナリストになったようだけど、製薬会社のファイザーが09年に買収したワイズ社日本人でワクチンメデikalマネージャーの経歴も持っている。15年にはJ.R.東海グループの『Wedge』11月号に「子宮頸がんワクチン再開できず日本が世界に広げる薬害騒動」というタイトルで、16年4月号には続編にあたる「暴走する大人と沈黙する子供たち 子宮頸がんワクチン『被害』からの解放」というタイトルで寄稿し、ウェブ版にも子宮頸がんワクチンに関する3編を発表しているんだけど、子宮頸がんワクチンがいいか悪いかの神学論争に血道を上げる前に、ワクチン接種後に失神状態に陥ったり、手足や全身のいれんに悩まされている10代の女性たちがいるのは事実なんだから、その因果関係を説明できなければ、村中の言う「科学」じゃないんだよ。1956年という僕や浅田さんが生まれた時分にすでに、水俣病第1号患者が公式認定されたにもかかわらず、因果関係はないと強弁し続けた当時の東大医学部と同じことになっている。

浅田 『Wedge』5月号では、低線量の放射線の危険を誇大に宣伝する非科学的な左翼は福島原発被害を拡大するだけだって批判する開沼博と対談して意気投合してたけど、古臭い左翼叩きの典型だね。確かに子宮頸がんワクチンや低線量被曝が有害だ



ってことは実証されてない。でも、逆に言えば、よくわからないってことを認めてかかるのが科学なんだし、わかってないからこそ警戒すべきなんだ。だから、福島の人々の不安を無視しちゃいけないのと同様、子宮頸がんワクチン接種後に苦痛を訴える人たちに非科学的っていうレッテルを貼り、心理的に不安定な若い女性の心身症だとか何だとか決めつけるのは、それこそ非科学的なんだよ。

田中 開沼も村中も、そして古市憲寿も弁証法を知らない「意識高い系」の「非社会学者」なんだと思うよ。津田大介は「悪い意味で（多少の良い意味でも）新しいタイプの高等遊民だ」と思って周りも接するしかない」とツイッターで苦言を呈していたけど、彼らの視野狭窄な「幻説」は、夏目漱石が墓場から出て来て「下等愚民」の間違いだろと言いつけかねない（苦笑）。

年少扶養控除の廃止で財源を捻出し、小学6年から高校1年の女性を対象に1人4・8万円、毎年1000億円近い公費を投じて始まったワクチン接種だけど、厚生労働省のウェブサイトではいまだに「子宮頸がん予防ワクチンは新しいワクチンのため、子宮頸がんそのものを予防する効果はまだ証明されていません」の但し書きとともに「接種を積極的にはお勧めしていません」と大書きされている。そもそも、子宮頸がんワクチンは、子宮頸がんに至る可能性をもたずH P Vウイルスに感染するのを予防するためのワクチンではあるけれど、すべてのH P Vウイルスに有効ではなく、100種類以上も存在するH P Vウイルスのうち、英国グラクソ・スミスクライン社のサーバリックスは2種、米国メルクの日本法人MSD社のガーダシルは4種にしか



心理的に不安定な若い女性の心身症だとか何だとか決めつけるのは、それこそ非科学的。（浅田）

意味がないんで、いつ何が起ってもおかしくないって前提で考えないよ。

田中 子宮頸がんにしる原発にしろ、閥値を見せていないから過度に心配するわけで、それを平気ですとだけ言っているのは精神論でしかない。

**参院選に田中氏が立候補！
国政政党おおさか維新の会から。**

浅田 ところで田中さんが7月10日投票の参院選に東京選挙区で立候補を表明。

田中 この号が発売される頃は選挙戦の真っ最中だけど、「私は守るべき人を間違えない。」をコピーに、「オリンピック2020」開催時には、人口減少社会へ突入していく東京を駆け巡って、「田中康夫には、答えがあります。」と語りかけていくよ。実は公認を得た国政政党おおさか維新の会は5月18日の党首討論で与えられたわずか4分間の中で共同代表の片山虎之助が「いまの憲法の良いところは残さないといけない」「緊急事態条項は必要ない」「9条改正は性急だ。やるべきでない」と述べていてね、先人観の強い「意識高い系」のみなさんに、このあたりを伝えていくのも僕のミッションだね。

浅田 そう、研究が進めば、何らかの因果関係が明らかになるかもしれない。たとえば低線量被曝と甲状腺がんの因果関係にしても同じこと。さらに言えば地震だってそうなんだよ。地質学的な時間は長期にわたるんで、南海トラフ地震のような例外を除けば、ここ数十年の地震の発生確率は非常に低く、ほぼランダムにしか見えない。原発事業者や規制当局は一定の地震発生確率を前提しているものの、その数字はあんまり

効用を発揮しない。以前から言っているように、ワクチンの接種よりも、イギリスやアメリカのように子宮がんや子宮頸がんの検診を徹底させるべきなんだよ。英米ともに検診率は8割台。イギリスでは政府が25歳から49歳までの女性を対象に無料検診を3年ごとに実施していて、検診を担当するのも医師に留まらず、技術研修を終えた女性の看護師が主体。望ましく雇用が生まれるのに、日本は自己負担で、婦人科医の大半は男性。検診率は2割台と低いまま。

日本産婦人科学会、日本産婦人科医会、日本婦人科腫瘍学会が連名で発表した「接種の勧奨再開を求める声明」は、「接種後2週間以内の『痛み』は副反応。それ以降の『痛み』は『心身の反応』と占い師みたいな非科学的『幻説』。

医師で初代厚生労働大臣の坂口力が理事

浅田 彰

あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。
83年に出版されたデビュー作『構造と力ー記号論を超えて』はベストセラーに。

